音楽で街を楽しく

髙橋一夫公認会計士事務所
ズンチャカ音楽制作研究所長
髙橋　一夫氏

公認会計士とバンドマスター、どちらが本職？よく聞かれます。マスコミ等ではズンチャカバンドのバンマスとしての活動が有名なようです。従ってまず音楽活動について紹介します。

バンド結成のきっかけは薬師祭植木市。生まれも育ちもお薬師さまの近くで、この季節になるとサーカス小屋から客を呼び込むジンタが流れ、それはウキウキ気分で賑やかなものでした。ところが大学を卒業し戻ってみると、祭りから音楽が消えていた。人々はただ黙々と歩き、全体がシーンと静まりかえっているような気がしました。

「これでは寂しい。自宅兼事務所前で演奏したい」と商工会議所に話したところ、「どんどんやってください」。音楽仲間に呼び掛け2003年から始めた。平日はみんな仕事を持っているため、毎年開催とは行かなかったが、それでも今回で10回目となった。メンバーは６人で、私はギターとヴォーカル、作詞作曲も手がけている。ちなみに作品はバンドのテーマ曲「列車の窓」から、本町商店街振興組合に依頼された「やまがた本町パレード」まで約100曲を超えています。

「街に音楽を」という思いは、ますます強くなっています。現在、私は山形市の公認会計士としては初めて、日本公認会計士協会東北会会長の仕事を仰せつかっています。東北地方の公認会計士は現在344人で、このうち仙台市内を中心とする宮城県が半数強の178人、山形県は35人です。ちなみにその数は経済力を反映しており、全国２万6,260人中、東京圏が１万6,467人を占めています。東北会事務局は仙台市の一番町近くにあり、通りを歩くと、ほぼ50㍍間隔でジャズ、ロック、ブラスと多種多様なリズムとメロディーが次々と耳に飛び込んできて、歩いていることが楽しくなります。そんな光景が山形の街で演出されればと切に願っています。

昭和51年10月に公認会計士２次試験に合格し（当時、全国の合格者は現在の約５分の１の280人でした）、以来、新日本監査法人で監査、塚田会計事務所で税務の仕事に預かってきました。平成23年６月末で監査法人を退職し、「 会計事務所をやらない公認会計士事務所」を開き、社外取締役、社外監査役、顧問、相談役として会社経営のアドバイスをしています。私の職業から見た山形の企業についての希望を申します。それは、「地域に小さく固まらず、広く門戸を開放して、グローバルな企業を目指してほしい」ということです。「根っこは山形」というアイデンティティを持ちながらも、自信を持って海外へ飛躍する企業になろうということです。

自信を持つということは街づくりについても言えることです。仙台の人から見ると、おいしい食べ物、温泉、蔵王、最上川、出羽三山、日本海等々山形はまさに理想郷のように映ります。それを大いに発信することです。仙台には多くの山形出身者が行政、経済界、マスコミなどで活躍しています。彼らの力を借りることも大切ですし、仙台商工会議所と密接な関係にある山形商工会議所が、その橋渡し役を担うことも一つの方策です。今はうまく行かなくとも、次世代のための「種まき」と思えば良いのではないでしょうか。

植木市の中日の９日（土）午後１時ごろから、新築西通りに面した自宅兼事務所で「勝手にコンサート」を開催します。山形ロータリークラブメンバーによる「アラカンバンド」や、やまがた舞子も駆けつけます。新緑まばゆい1日、ぜひ足を止めて演奏を楽しんでください。